

# 「和紙の里」再興を

## コウゾ蒸すかまど完成

【幡多】幡多郡黒潮町佐賀地域の基幹作物だったコウゾ(楮)生産を復活させる取り組みを進めている「佐賀北部地域協議会」が、同町拳ノ川のニュー佐賀温泉にコウゾを蒸すかまどを整備。このほど初の火入れを行った。かまどの具合も上々で、同会の中嶋久実子さんは「和紙生産の拠点施設になつてほしい」と期待している。(井上真一)

### 黒潮町佐賀地域

## 皮はぎ体験も受け入れ

同町佐賀の北部地域は明治時代から1950年代にかけてコウゾの栽培が盛んだった。特に拳ノ川の若山地区のコウゾは「若山楮」と呼ばれ、全国的にも良質で知られたという。しかし、それ以降、和紙の需要が減るなどしたため栽培農家がなくなり、生産が途絶えてしまっていた。

そこで、拳ノ川などの8地区でつくる同会は、和紙づくりの復活と産業振興のために、昨年からはコウゾの育成を開始した。同地区などの約10㍎に自生したコウゾの幹を切り、新芽が出やすいように手入れ。下草も刈る

などして環境を整えていた。また、今年5月には長岡郡大豊町の元コウゾ農家の女性からコウゾを蒸す時に上にかぶせるおけを格安で購入。同温泉の敷地内に自分たちでかまどを造り、蒸しはぎができるようにした。

11、12日にはコウゾを刈り取り、20日には地元の小中学生を招いて蒸しはぎ体験を行う予定。当面、蒸しはぎしたコウゾの皮は、県外の和紙すき業者への販売などを計画しているという。

中嶋さんは「いずれ県西部に和紙づくりが広がってくればうれしい。体験の受け入れも積極的になりたい」。蒸しはぎ体験などの問い合わせ先は同町海洋農林課(0880・55・3115)。



自作のかまどに初めて火を入れる「佐賀北部地域協議会」のメンバー(写真はいずれも黒潮町拳ノ川)

幹を切り、新芽を出したコウゾ